

人材

育成基金

高校生
短期留学
ホームステイ
体験記

町では、自ら考え自ら行う地域づくり事業として、当別町人材育成基金を設け、当別町のまちづくりを担う人材を育成しています。

この事業の一環として、年末年始にアメリカのカリフォルニア州に短期留学した町内の2名の高校生が体験したことや学んだことをご紹介します。

高校生短期留学の平成20年度募集は今年秋頃の予定です。

▼詳細 企画課企画振興係(☎23-3042)



吉嶺 ともよ 朝葉さん

札幌西高等学校 1年
(スウェーデンヒルズ)

英語を学んで、将来役立てたいとの
思いでこの事業に参加しました。

言葉の面で、ホストファミリーや、現地で知り合った人たちとの会話は、とても大変でしたが楽しかったです。

日常会話は中学で習う基本的なことをどれだけ瞬時に言葉にできるのかが一番で、その次が語彙力。単語をつなげて話す、コミュニケーションを取ることが出来ました。あとは聴き取るのが少し大変でした。

また、アメリカはいろんなことにほんとにルーズなんだと思いました。例えば信号。赤なのに車が来ていなかったら普通に無視しちゃったりで、けっこう心配になりました。

ホームステイ先のリバーサイドの町には、そこに住んでいる人しか中に入ることが出来ない、高級住宅街エリアがあり、



リバーサイドの高級住宅街エリア前にて

門の前まで行って来ました。

エリア内の家はバカでかくて、高台の眺望が良い所に建っていましたが、見て貧富の格差を感じました。日本でも格差はありますが、世界規模で見るとそこまでひどくないようです。

今回、外国でのホームステイを通じて、想像以上の体験が出来ました。多くの方に、日本では決して味わうことの出来ない生活にチャレンジしてもらいたいと思いました。

クリスマスから新年の約二週間、パーティーやキャンプなどで交流が出来、とても楽しく、充実した研修でした。

ホームステイ先のホストファミリーは皆面白い人で、話しやすく、とても良い家族だと思いました。

最初買い物に行った時には、すごくとまどってお店の人に迷惑をかけてしまいました。でも、アメリカのスーパーマーケットやショッピングモールはとても大きくて、何度行っても飽きないなと思いました。あと、噂には聞いていましたが、日本と比べると食料品のサイズが大きくてビックリしました。

多くの場面での会話を通じ、外国の文化に触れることも出来、現地の人たちに日本の文化を伝えることも出来ました。折り紙で風船や鶴を折ったり、けん玉を

教えた時には、とても興味を持ってもらえました。また、日本から持って行って調理したうどんは「おいしい」と好評で、うれしかったです。

今回参加して、学校で習う英語ではない言葉を実際に学ぶことが出来、日本とアメリカの文化、暮らしの違いを知りました。将来は英語を使う仕事に就きたいので、この研修で学んだことを活かせば良いなと思っています。



澤田 詩織さん

石狩南高等学校 2年
(栄町)



チャイニーズシアター前 ジャック・スパロウ?と

文化活動・交流の拠点
ふれあい倉庫「赤れんが6号」

☐ ふれあい倉庫イベント情報

【カルチャーホール】

「21世紀鮎田塾」

▼日程 2月第3週から3月第1週までの3週連続で各週1回づつ、テーマを設定して行います。
(内容詳細は別途お知らせします。)

▼主催 当別町、当別移住促進協議会^{ほか}

▼詳細 美しいまちづくり課 (☎ 23 - 3073)

【多目的ホール】

当別中学校ときわ(特別支援)学級

「やさしい^{かた}風展」

1年間の学習の中で作ったステキな作品、ユニークな作品、力強い作品、心優しい作品を展示します。

▼開催日 2月19日(火)～24日(日) 9時～16時

▼詳細 当別中学校(☎ 23 - 2158)

《ふれあい倉庫の活動紹介》

健康体操サークル「^{はなまい}花舞」

カルチャーホールを利用している「花舞」は、各種イベントや文化祭などで活動しています。

踊りが好きで集まった皆さんは、体力や年齢はさまざまですが、練習の合間には笑い声が絶えないアットホームな雰囲気です。

一緒に体を動かしてみたい方は、ぜひ一度見学にどうぞ。

♪練習時間

毎週火曜 19時～



☆カルチャーホールを利用しませんか？

ふれあい倉庫のカルチャーホールには、山台という畳一枚分の大きさの台を敷き詰めたステージを設置していますので、利用に合わせてステージの形を変えることができます。

また、床面積は177㎡あり、150脚の椅子を並べられる手ごろな広さです。

コンサートや発表会、研修会などが行われていますが、ダンスの練習などで定期的に利用している団体もあります。

練習や活動場所を探している方は、是非一度ふれあい倉庫にお越しください。スタッフが丁寧にご案内します。

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎ 27 - 6600)
商工課 (☎ 23 - 3129)

続

町長の日記

平成20年1月11日(金)

今年は今のところ大雪も降らずホッとしていたら、昨夜は15cm余りの雪が降った。当別町では通常、朝3時にビトエから青山まで降雪状況を調べて雪が10cm以上積もっていたら、3時半頃から約80人が70台の除雪機を駆使して7時迄に除雪を完了する事になっているから、朝起きた時は道路はすっかり除雪されていた。

出勤の為、役場に向って車で走っていたらJRの材木沢踏み切りの所と百年会館の交差点に1個づつスーパーのレジ袋に15リッターくらいゴミを詰めた物が捨てられていた。

“一朝300万円也”で除雪したばかりの雪道なので、とても目立って、暗いうちから除雪してくれた人に申し訳ないような気がして拾って役場まで持っていった。袋の中には、卓上用ガスボンベ・煙草の吸殻・カップ麺容器・食器洗い洗剤・鏡餅その他、生ゴミなどがゴチャゴチャに入っていて、捨てた人の事情は役場の職員にも、おおよそ想像が付いた。

今、役場では、以前と違って朝出勤してきたら部長も課長も皆、自分の机の掃除を自分でするように、仕事に出るゴミも夫々自分の机の下に手作りのゴミ袋を用意し分別処理しているから、職場の意識も随分変わって事務用紙の消費量も少なくなったと云われている。当別町全体でもゴミの意識は相当変わったので、この一年間で40%ぐらい減量化した。各家庭でも、もう少し資源ゴミに回してくれるともっと減量化し、環境に貢献出来ると思う。スウェーデン大通りをいつも決まった時刻に、ちょっとお洒落な杖を持って散歩しながら右手にビニール袋を下げて空き缶を拾っておられた方が亡くなられて、もう三年ぐらいになる。私も見習って犬の散歩の時、他の犬の糞も拾う事があるが、そんな時、あの老紳士はどんな思いで拾っておられたのだろうと考えることがある。まるで自分が落とした物を拾い上げるように自然な振舞いだったのが何年たっても忘れられない。

当別町長 泉 幸彦